

指定管理者制度導入施設 モニタリング結果報告書

1 公の施設の概要について

施設の概要	名 称	あきる野市高齢者在宅サービスセンター 開戸センター
	所在地	あきる野市湊上 322 番地 1
	所管課	健康福祉部高齢者支援課高齢者支援係（内線） 2 6 3 2
指定管理者	名 称	医療法人財団 暁
	所在地	あきる野市秋川 6-5-1
	業務内容	1 管理運営に関する業務 (1) 高齢者生きがい活動支援通所事業 (2) 地域における高齢者福祉の拠点としての活動事業 (3) その他市長が特に認めた事業 2 施設、設備等の維持管理及び修繕に関する業務 (1) 屋内・屋外（植木等のせん定を含む。）、付帯設備及び物品の保守、維持管理及び修繕に関すること。 (2) その他の施設等の管理に関すること
ホームページ URL		http://www.akirudai-hp.or.jp/houzin/center.html
指 定 期 間		平成 2 5 年 4 月 1 日～平成 3 0 年 3 月 3 1 日

2 施設の利用状況等について

項 目	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度
開館等日数（日）	244	247			
延べ利用者数 通所（人）	3,332	2,962			
前年度比（人）		△370			
前年度比（%）		88.9			
延べ利用者数 自主事業（人）	431	1,052			
前年度比（人）		621			
前年度比（%）		244.1			
利用料金 通所（千円）	3,083	2,518			
前年度比（千円）		△565			
前年度比（%）		81.7			
利用料金 合計自 主事業（千円）	328	661			
前年度比（千円）		333			
前年度比（%）		201.5			

3 施設の収支状況について

(単位：千円)

項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	指定管理料	13,606	13,160			
	利用料金収入	3,083	2,518			
	自主事業収入	328	661			
	収入計	17,017	16,339			
支 出	人件費	10,537	10,378			
	維持管理経費	4,406	4,181			
	自主事業関係経費	4,284	1,714			
	その他の支出	0	0			
	支出計	19,226	16,273			
収支(収入-支出)		△2,209	66			

4 施設の利用促進や市民サービスの向上の取組

利用者アンケート(実施時期や具体的な方法など)
通所事業では、利用者の意見や要望を取り入れながら心身の状況を把握し、様子観察することで満足度を把握しています。げんき応援事業では講座終了後にアンケートを実施し、要望やニーズにあった講座を取り入れて行っています。
利用者から寄せられた意見・苦情及び対応状況
食事は変わらず好評をいただいでいて、残食もほとんどありません。アレルギー対応やバランスのいい食事に、安心と信頼が持てるという意見がありました。いろいろな方の出入りが活発になったことでセンター内の雰囲気も明るくなったと好評です。
利用促進のための独自事業、市民サービスの向上の取組など(取組の内容、効果など)
今年度は、特にセンターの周知に力を入れ、センターの玄関前のパンフレットの工夫や町内会へのチラシの配布等を実施しました。センターの入口の雰囲気を良くすることで、気軽に入っていただき、玄関内も作品が展示されていた場所を整理整頓したことで、イメージを一掃することができました。2階は活動の幅を広げるために、備品を片付けて2つの部屋を使用することで収容人数を増やすことが出来ました。自分で出来ることは極力行っていただきながら、高齢になるにつれての体の不安や悩み事などへの相談援助も行い、自立した生活が無理なく安全に行えるよう支援しました。 また、昨年に引き続き夏ボラや職場体験、インターンシップの受入れを行い地域に密着した事業を展開しました。次年度も様々な工夫で満足していただけるセンターを目指します。

5 経費削減のための取組

具体的な取組内容
不要な電気は消す。週末や年末年始などは、コンセントからプラグを抜くなどして節電を心掛けました。コピー用紙も内容に応じて裏紙を使用する、活動にリサイクル品を使用するなど工夫をしました。設備では業者と協議することで費用を抑える等して維持管理費を削減することが出来ました。今後も継続して行っていきます。

6 指定管理者による総合評価

利用状況、収支状況などを踏まえて、業務改善につなげていくための総括・自己評価
2年目を終えて、通所のご利用者だけでなく、一般市民の方々がセンターに来ていただけるようになったことは、高齢者在宅サービスセンターの役割や存在を知っていただく上で大きな進歩だったと実感しています。今後は異世代交流なども取り入れながら、地域に密着したセンターを目指します。 開戸は地域性なのか、げんき応援事業にて一般の方からの申し込みがほとんどない月が多かったのですが、企画を工夫することで少しずつ利用される方が増えてきました。次年度も地域に密着したセンターを目指し開戸センターを運営していきます。

7 所管課による総合評価（太枠にS～Bの3段階で評価を記入）

市民サービスの向上	
<p>職場体験や夏ボランティアの受入など、社会参加という視点での事業実施がなされており、利用者にとっても新鮮な体験となっています。また、げんき応援事業の利用者も昨年度に比べ、増加しています。今後も引き続き啓発・広報活動を実施し利用者の増に努めてください。</p>	
経費削減の取組	
<p>職員の意識付けと組織としての取り組みがなされ、経費削減に努めていると評価できます。</p>	
業務改善につなげていくための指定管理者の管理に係る総括的な評価	
<p>利用者の減少がありました。今後も魅力的な活動が提供でき、新たな利用者が楽しんで通所できるよう努めてください。また、施設の維持管理等、引き続き経費削減に努めるようお願いいたします。</p> <p>自主事業の利用者も増加しているので、更に開戸センターが地域の方に周知されるよう努力すると共に、収支バランスの適正化に努める必要があります。</p>	
総合評価	A

※評価基準

- S：モニタリングチェックシートにおいて、全ての項目が「適正」であり、協定書、事業計画書等よりも優れた指定管理業務を行っている。
- A：モニタリングチェックシートにおいて、全ての項目が「適正」であり、協定書、事業計画書等に沿った指定管理業務を行っている。
- B：モニタリングチェックシートにおいて「要改善」の項目があり、協定書、事業計画書等で定める指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の必要がある。